

2020年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	西洋の木版画 500年の物語			担当者名	和南城 愛理		
会期	9月26日(土)～11月23日(月・祝)			開催日数	51日間		
協賛・後援・協力	なし						
巡回館	なし						
展覧会概要	収蔵品約150点で、西洋の木版画500年の歴史と特色を紹介する展覧会。15世紀の素朴な初期木版画、西洋の木版画史の最初の頂点をなしたデューラー作品、木口木版による愛らしい絵本、現代作家による大型作品など、これまでの「木版画」のイメージをかえる多彩な作品を展示した。						
ねらい・対象	浮世絵や仏教版画などから思いうかべる日本の木版画とは異なる展開をとげてきた、西洋の木版画の歴史を紹介する。あわせて15世紀から現代までの流れを追うことができる当館の充実したコレクション注目してもらうことを目指した。対象は全年齢層で、展示パネルおよびリーフレットは中高生以上を対象に作成した。						
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数		
	講演会	11月21日	西洋の木版画-その歴史と展開	佐川 美智子氏	60		
	子ども向け鑑賞教室	10月31日	おうちで版画美術館	富田 めぐみ氏	11		
	刷り体験	11月7日	木版画でポケふたを刷ろう!	大平 歩氏	16		
	ギャラリートーク	10月11日	ギャラリートーク(古版画)	当館学芸員 藤村 拓也	18		
	ギャラリートーク	11月8日	ギャラリートーク(近現代版画)	当館学芸員 高野 詩織	25		
	ギャラリートーク	11月15日	ギャラリートーク(木口木版)	当館学芸員 和南城 愛理	33		
	プロムナード・コンサート	11月14日	“バーゼンドルファー”の響き	高橋 里奈氏	213		
観覧料	一般	大・高生					
	800 円	400 円					
観覧者数 (現在)	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	3,431 人	1,703 人	5,134 人	4,731 人	275 人	128 人	人
	目標値(新型コロナウイルス感染対策のための目標修正以前の当初目標数)						4,193(11,980) 人
主な収入 (会期終了時)	観覧料収入		図録販売収入		受託販売収入		その他の特定財源
	2,270 千円		0 千円		248 千円		0 千円
				・展覧会協力謝礼	285 千円	3,279千円	
				・作品展示撤去委託料	635 千円		
				・作品額装委託料	568 千円		
				・展覧会ポスター等作成委託料	591 千円		
				・ディスプレイ作成委託料	880 千円		
				・ポストカードブック作成業務委託料	320 千円		

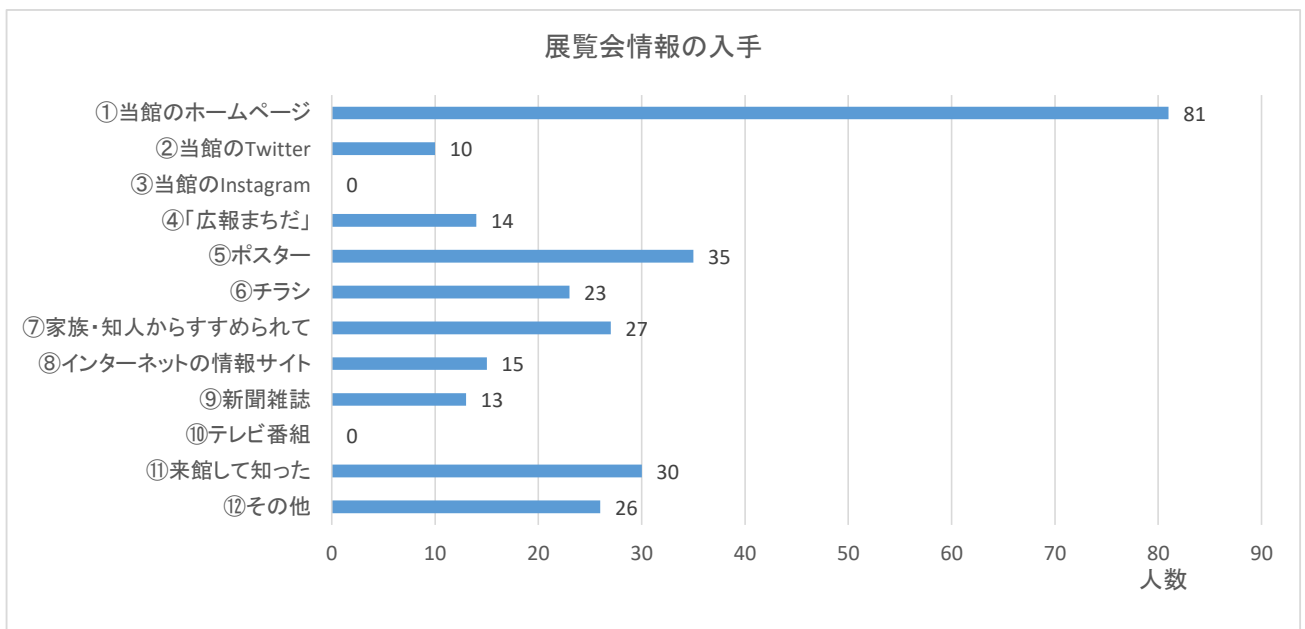
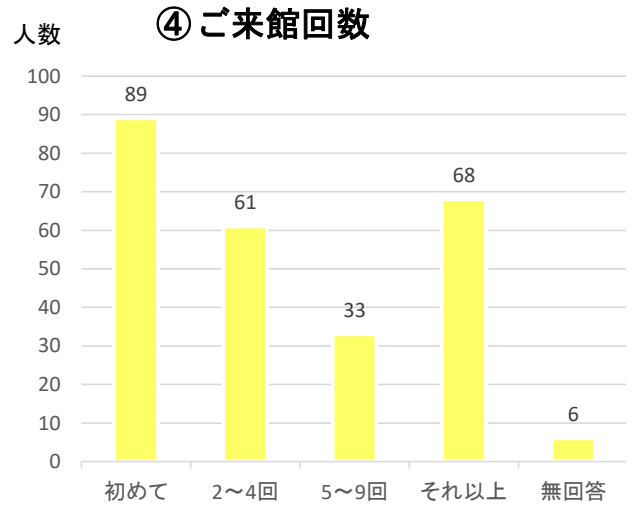
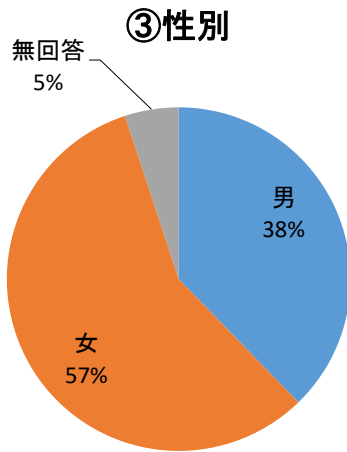
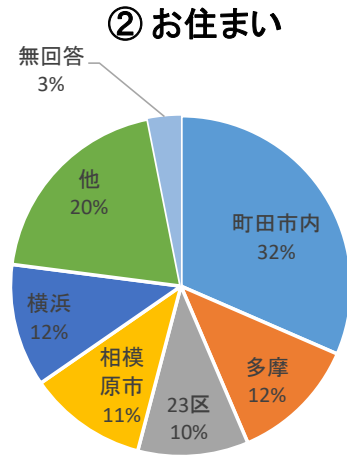
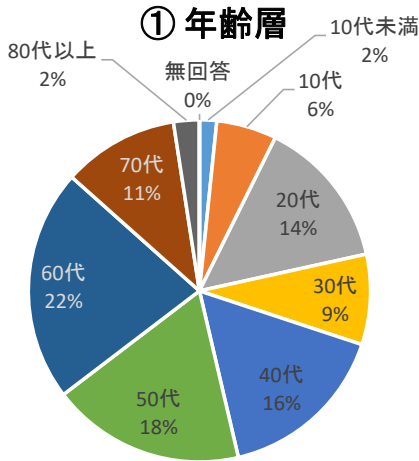
主な広報・取材等の講評	『都政新報』10月27日(火)「知られていないその全貌 西洋の木版画 500年の物語」、『神奈川新聞』11月6日(金)「ミュージアム・ナビ」、ほか、FMさがみ、多摩テレビの情報番組内の展覧会案内							
アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)			
	257 件	5 %	32 %	63 %	企画の内容	展示作品	展示の仕方等	
	主なご意見	別紙のとおり。						
工夫と反省点 改善方法	予備調査	当館でこれまでに開催した展覧会のうち、西洋の木版画を取り上げたものの図録を参照しながら、展示構成を組み立てた。主なものとしては『書物の森で』(1996)、『民衆版画』(2002)、『挿絵本の世界』(2010)、『版画の冒険』(2012)など。						
	作品選択	各時代の特色を示す作品を選択し、西洋木版画の歴史の流れに従い全体を構成したのち、各時代の特色が伝わるように、比較例として木版以外の技法による作品および西洋の影響を受けた日本の作品を加え、「歴史の流れが理解できるコレクション」という当館の収集方針に従ったオーソドックスな構成とした。歴史的な流れがわかりやすかったという感想とともに、この内容の展示を収蔵品で組める充実したコレクションに驚かされたという声がアンケートにも多く寄せられた。						
	リーフレット	A6判16ページのリーフレットを作成した。展示室の解説パネルよりも詳しい解説を希望する人を対象に、「デューラー」「木口木版の技法」などについての説明を掲載した。リーフレット自体は好評だったが、無料配布の簡単な小冊子であったことから、より充実した図録があったらよかったという声が聞かれた。						
	ディスプレイ	新型コロナウイルス感染対策のため、展示数を絞り額の間隔を広げること、来館者が交錯しない順路設定を心がけた。解説キャプションも必要なものだけにとどめ、文章も短くした。シンプルで要点がわかりやすいと概ね好評であった。						
	広報	マスコミ各社へのプレスリリースおよび美術館等へのポスター類を通常通り発送したのに加え、出品作品紹介をInstagram(和英)とTwitterで各16回発信、若い層へのPRを狙った。初めての実施となったシルバーデーについては、近隣町内会および老人クラブ連合会にチラシ配布や掲示を依頼、「ゆうゆう版画美術館まつり」では受付でチラシを配布した。広報まちだにも展覧会案内とは別記事で掲載してもらい、新型コロナウイルス感染で高齢者層の来場が減った印象があるなか、2回で322人の利用者を集めることができた。今後も一層の定着を図っていききたい。						
	イベント	新型コロナウイルス感染対策のため、講演会と刷り体験は定員を通常の同種イベントよりも制限し、ともに満席となった。ギャラリートークは会場全体をまわる通常のスタイルではなく、時代を区切り各回30分以内の短時間コースとしたが、いずれの回も予想以上の参加者があり、場所によっては密な状態となった。今後は感染状況に応じ、スライドトークなどへの切り替えを検討する必要があるだろう。						
	写真撮影	著作権がある一部の作品をのぞき会場内は撮影可能とした。年代順の展示であったため、除外作品が会場の最後のコーナーに限定され、撮影可/不可エリアが分かりやすいと好評だった。撮影した画像をSNSにあげた来場者もみられ、広報効果にもつながった。ただいつものようにシャッター音に関する苦情があり、マナーの向上が引き続きの課題である。						
その他	刷り体験イベントの版木を、今年8月に芹ヶ谷公園に設置された「ポケふた」の図案をもとに制作したことから、市のHPの「ポケふた」関連ページでイベントが紹介された。2021年1月には市庁舎で版木と刷り見本が展示される予定で、広報課が展開する「ポケふた」PRに協力するとともに、当館の広報にもつなげることができる。							
その他特記事項	新型コロナウイルス感染による影響は大きく、美術館連絡協議会の調査によると、関東地方の美術館の1~6月の入場者数は前年比70%減であった。本展では、高齢者と遠方からの来場者はあまり見込めないという予測をたて、SNS広報の強化による若い層へのアピールと、外部エントランス付近の装飾を明るく楽しい図柄にするなど公園利用者の取り込みを図った。アンケートの結果では、50代以下が2/3、市内と隣接する相模原・横浜市から半数を占め、5,000人を超える来場者を確保することができた。会期中盤以降、天候に恵まれ、公園利用者が多かったことも有利に働いた。							

「西洋の木版画 500年の物語」展

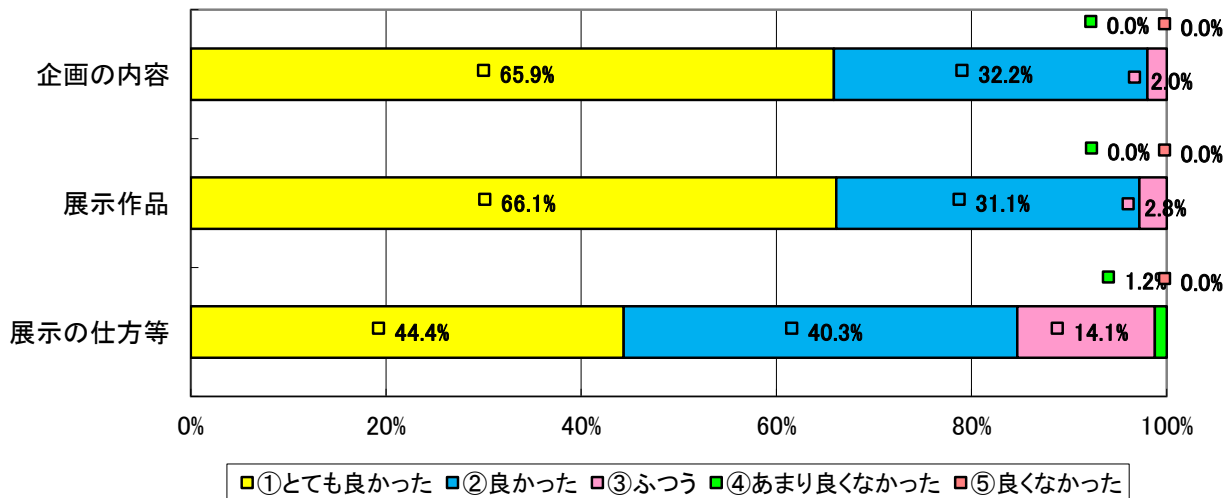
アンケート集計結果

開催期間：2020年9月26日（土）～11月23日（月祝）

回答者数：257人（総入館者数：5,134人 アンケート回収率：5%）



⑥ 回答者の満足度



⑦ 主なご意見・感想

◆内容について

- ・ルネサンスから現代まで西洋の木版画の歴史を広く系統立てて見られた／企画がまとまっていてわかりやすかった
- ・見ごたえがあった／美術表現と歴史のつながりを考えることができた／今のコロナ禍にも通じる、すでにあるものを工夫するとか、古きを見直して表現やつくりを変えていくという精神を感じた。
- ・西洋の版画は見る機会が少ないので興味深かった／知らない世界を見ることができた
- ・好きな作家・見る機会が少ない作品が見られた(1400年代の古版画、デューラー、ゴッディン、ヴァロトンなど)

◆会場について

- ・作品の間隔に余裕があり、ゆっくり見られた／順路が分かりやすかった
- ・ほとんどの作品が撮影可でうれしい／撮影可と不可の場所の区分が分かりやすかった／シャッター音がうるさい
- ・簡にして明な解説で分かりやすかった／人の流れを妨げない適度な解説の量だった
- ・もっと解説が欲しい(技法、キリスト教について、作家の出身国と作品の原語タイトル、英文解説など)

◆その他

- ・西洋の木版画をこれほど多彩に収蔵している美術館は日本ではめずらしい／西洋版画の企画展を期待する
- ・この素晴らしいコレクションを公開する機会をふやしてほしい
- ・自分でも版画を作ってみたくなった／美術館の特色を活かし、展示に関連する実技イベントや講座を工房で開催してほしい
- ・美術館バスを続けてほしい